

飯山市地方創生総合戦略会議（第2回）顛末

委員 出席者：22人 欠席者：3人

日時 平成27年7月31日（金） 15時～
場所 飯山市役所 第3・第4委員会室

- 1 開会（進行：企画財政課長）
- 2 市長あいさつ

（あいさつの後、今回初めて出席いただいた委員の自己紹介）

3 報告事項

(1) 分野別懇談会の開催状況について

業種・分野	担当部	期日	時間
金融	総務部	7/16（木）	10:30
農業	経済部	7/22（水）	13:30
商工業	経済部	7/27（月）	18:30
観光業	経済部	7/24（金）	15:30
移住定住	建設水道部	7/23（木）	18:30
子育て・若者	民生部	7/23（木）	18:30
高校生	文化振興部 教育部	7/24（金）	16:00

・業種・分野別に担当部長から報告

4 協議事項（進行：会長）

(1) 飯山市人口ビジョン・飯山市総合戦略骨子素案について

（事務局）資料説明

（会長）各分野の懇談会は1回のみ開催であり、この状態のまま具体的な施策はすぐには出てこない。この会議を含めて更に議論を深めていく必要がある。

（委員）日本全国で今この地方創生に関する計画策定作業に取り組んでいる。飯山市の戦略に必要なことは他の自治体とは違う特徴を強力で打ち出すこと。そのために長野県の中で飯山市はどのような位置にいるのか、他自治体と比べてどこが強く、またどこが弱いのか明らかにする必要がある。

（委員）高校生がこの会議のメンバーにいることに感動した。若い人が住みたくなるようにするには何ができるかという視点が必要。中高生の意見をもっと取り入れるべき。大人の発想だけではだめ。

（委員）住んでもらえればお金を出すという自治体に人は住まない。要は、飯山市民自らが自分のまちをどのくらい好きなのかということ。市の魅力を市民自らPRするには、飯山市を好きでないとできない。

（委員）戦略策定にあたっては、総花的なものではなく「尖った」ものにしないと他の市町村との差が出ない。今後の検討にあたりどこを尖らせていくのか考えていく必要がある。そ

の中で自らが思うのは、飯山市は日本で一番安全なところであるということ。将来危惧されている南海トラフ地震等が発生したとしても飯山市であれば食糧や水、地域で支える暮らし等大都市にはないものが全て揃っている。

- (委員) 飯山市の魅力は、よそ者の方がよくわかっている。よそ者の力をもっと活用すべき。
- (委員) 農業の将来を考えたとき、農業に対する考え方を根本的に変えていく必要がある。自分で作って自分で販売しなければならない。JA任せの時代ではない。
- (委員) 地元の小学生に米作りから販売までを体験させる支援をした。米食味コンクールへの出品も勧めた。こうした取組みを通じてこれからの子どもたちに飯山への誇りをもってもらえると思っている。
- (委員) 世間では農家＝嫁不足という見方が定着しているが、そんなことはない。考え方で変わるもの。結婚できない若者が増えているという話もあるが、どうも人任せ、人のせいにしていないかとも感じる。自分自身の問題として自分自身で行動し、解決すべき。
- (委員) 前委員の発言にあったとおり、尖ったところを見出す必要。何でもかんでもではなくどれか一つに絞って集中的に取り組むべき。やはり観光と起業ではないかと思う。
- (委員) 若者が住みたいと思えるまち、子育てしやすい環境づくりに優先的に着手すべき。子どもや母親が集える公園が市内にほしいという声を多く聞く。
- (委員) 子どもの頃から飯山の魅力に触れる機会をもっと増やすべき。飯山に住む大人たちは格好良いと子ども達に思ってもらえるようになると良い。
- (委員) 懇談会では子育て世帯等への支援をというような発言もあったようだが、金融機関では既に子育てや教育、住宅ローンの利率低減を行っている。更にPRに努めたい。
- (委員) 前委員の発言のとおり、これからの時代を支える中高生の意見をもっと尊重したい。
- (委員) 市内で材料等を調達し、東京で販売し、その利益を市内に還元するような好循環の仕組みづくりに向けて様々な業種間で連携を進めている。
- (委員) 飯山市民が飯山に対して悪いイメージを多く持っていると感じる。胸を張って自慢、PRできるものが必要。
- (委員) 雪の負担は大きい。また、一人で生活していた方が楽といった結婚に対する若者の意識の変化も心配だ。
- (委員) この会議の出席にあたり、飯山の暮らしでは、雪、おてんま、消防、祭礼などの負担が大きいという市外に転出した友人の声を聴いた。また、この地域には土日休みの仕事が少ないように思う。子育てと仕事の両立が難しい。
- (委員) もっと手軽に使える起業支援制度がほしい。
- (委員) 中学校、高校で飯山市のことをもっと学習する機会があれば良い。飯山の課題を自ら調査し、それに対して解決策を探っていくようなことも必要。高校生の意見をもっと聞いてほしい。
- (委員) 信州大学の卒業生の約4割が地元就職している。それは信州で働きたいという気持ちの現れである。「飯山に住むなら収入は少なくとも良い。」と思えるようなまちとしていかなければならない。
- (委員) 総合戦略にはキャッチフレーズが必要。例えば「日本一老人が輝く市」はどうか。老人が増えると介護する若者が必要、それで雇用が増えるというような流れもある。他との差別化を図る。よそと同じにする必要はない。
- (委員) 目先のことだけでなく長いスパンで考え、将来ある子どもたちに夢の種をまかなければならない。地域を良くするのは何と言っても人材。
- (委員) 長野県知事と北信管内市町村長との意見交換の場でも特色ある戦略としていく旨の話があった。飯山市の戦略も前委員の発言のとおり特色あるものになれば良い。

(2) 質疑・意見交換
特になし。

(3) 今後の予定について
(事務局) 次回は8月お盆過ぎの開催を予定したい。

(4) その他

5 その他

(市長) 分野別の懇談会を引き続き開催したい。次回の戦略会議までしばらく間が空くので、その間ご提言等あれば事務局へ連絡いただきたい。自分だったらこうしたいというご意見もいただきたい。

(市長) 総合戦略は漠然としたものであってはならない。今後5年間で飯山市は何をめざし、何をやるのか具体的な計画としてく必要。非現実的なものではだめ。地域経済、若者定住、子育てなど幅広い分野の取組みを具体性、実現性のあるものとし、飯山市ならではの特色を出していきたい。

6 閉会 17:04